

2014年4月17日洗足木曜日

- ※ 文中、「私たち」は、イスラエル民族（ユダヤ人）を意味します。
- ※ このハガダーはメシアニック・ジュー（イエスを信じるユダヤ人）によって作成されていますので、「イエス」ではなく、ヘブライ名の「イエシュア」が使われています。また、メシアは「救い主」を意味します。
- ※ 記号の意味    ▼ テーブルリーダーの動作    ● 全員の動作    ★ 子供の動作

■祭の前に家からパン類を取り除く。    (出エジプト 12:15、I コリント 5:7)

## 1 蠟燭の点火

伝統によれば、イスラエル人がエジプトから贖われたのは、その時代の敬虔な女性のゆえでした。その女性は、その時代の義なる男性たちよりもさらに 義人であったというのです。そこで、祭や安息日にあたって、家庭で蠟燭に点火するのは、女性の特権なのです。

祈り：ほむべきかな宇宙の王なる主なる神。あなたは我らを律法で聖別し、祭日の蠟燭を灯すことをお命じになりました。

### 子供の祝福

過越の食事セデルが、子供たちの祝福で始まるのは興味深いことです。子供たちは、主の目には大切なものであり、決して付属物ではありません。神の家族の重要部分なのです。だから、イエシュアも様々な機会に小さな子供たちを招かれたのです。

#### ★子供は前に出て祝福を受ける。

(父親が息子たちの頭に手を置き、次のように言って祝福します)。

祈り：主があなたをエフライムのように、マナセのように、その他の偉人たちのようにされ、愛と聖と謙遜と力と權威によって心から従順に、我らの主なる神に忠実に仕えますように。

(そして、同様に娘を祝福します)。

祈り：主があなたを箴言 31 章の女性のようにされ、心から純粋に、熱意と気品と美しさをもってイエスに仕えた女性たちのようになりますように。

そして、アロンの祝福(民数記 6:24-26)を唱えます。

祈り：主があなたを祝福し、あなたを守られますように。主が御顔をあなたに照らし、あなたを恵まれますように。主が御顔をあなたに向け、あなたに平安を与えられますよ

うに。アーメン。

## 2 カディシュ

### ▼最初の杯を満たして下さい。

#### 【参考】四つの杯の意味

過越の祭のセデル（儀式的食事）においては、4つの杯が飲まれます。それは古代からの伝統で、神が私たちの民族に与えられた自由の約束（出エジプト記 6:6-7）の 4 つの動詞に対応すると言われます。

それゆえ、イスラエル人に言え。わたしは主である。わたしはあなたがたを エジプトの苦役の下から**連れ出し**（聖別）、労役から**救い出す**（救い）。伸ばした腕と大いなるさばきとによってあなたがたを**贖う**（贖い）。わたしはあなたがたを**取って**わたしの民とし（完了）、わたしはあなたがたの神となる。・・・（出エジプト記 6:6-7）

「私は連れ出す」神の目的は贖いであり、私たちにとっては聖別です。さらに神に似たものとなり、完全に神の意思 に従って人生を生きるためなのです。

神がこのペサハの祭を私たちに与え、贖い主（メシア）によりエジプトの奴隷状態から解放し、人々への計り知れない愛を示し、イエシュアをこの世につかわし、私たちが罪の奴隷状態から解放されたのです。ヘブライ語でエジプトを意味する「ミツライム」は、「狭い地」という意味なのです。

### ▼杯を持ち上げます

祈り：ほむべきかな我らの主なる神、宇宙の王。あなたはぶどうの実を創造されました。

### ● 1 杯目を飲み干す（残さないようにして下さい）

#### 一般的な感謝

この祝福（祝祷）は、1年を通じて何かを始める時に唱えられます。たとえば、祭の始まりや、何かの果物をその年に初めて食べるとき、新しい家を購入して入居する時、新しい服を購入して最初に着る時などです。

神の言葉は教えています。「いつでも、すべてのことについて、私たちの主イエス・キリストの名によって父なる神に感謝しなさい。」（エペソ 5:20）つまり、何でも「当たり前」と考えてはいけないという、この原則はセデル（過越しの食事）にも取り入れられています。

祈り：ほむべきかな我らの主なる神、宇宙の王。あなたは私たちを生かし、命を保って

この季節まで導いて下さいました。

### 3 カルパス

#### ▼ パセリの皿を持ち上げる

このパセリはヒソプの象徴です。それは、イスラエル人の贖われる夜に、死の天使から家を守るために家の玄関の柱に血を塗るために用いられたものです。

そして、パセリを塩水に浸します。塩水は、歴史を通じて流されたユダヤ民族の涙を象徴します。しかしそれは、私たちの痛みと苦しみ、罪と恥を負われたイエシュアの犠牲の象徴でもあります（イザヤ 53 章）。

ヒソプの一束を取って、鉢の中の血に浸し、その鉢の中の血をかもいと二本の門柱につけなさい。朝まで、だれも家の戸口から外に出てはならない。（出エジプト 12:22）

祈り：ほむべきかな我らの主なる神、宇宙の王。あなたは地の実を創造されました。

#### ● パセリを塩水に二度ひたしてから食べます。

血を塗ることにより、イスラエルは死の天使から守られ、神とイスラエルの契約は確認され（出エジプト 24:8）ました。それは神の契約の民に対する過去・現在・未来にわたる忠実を示すものです。それはイエシュアを通じて私たちに及び、私たちは死から命へ、闇から光へ、絶望から希望へ、悲しみから喜びへ、希望の無い人生から豊かな人生へと導いて下さるのです。

イエシュアはユダヤ人にも異邦人にも過越の小羊（1コリント 5:7）であり、また、宿営の外で焼かれた罪の犠牲（ヘブル 13:11-13）です。彼は神の小羊であり、エルサレムの門外で私たちの罪のために血を流された「苦難の僕」。それは神のもとに来て、彼をメシア（救い主）として受け入れる全ての人のためなのです。

イエシュアはまた、私たちの「和解の犠牲」でもあります。彼が十字架につけられた、まさにその時つまり、過越のための和解の犠牲が捧げられていたのです（ヨハネ 18:28）。私たちのための平和（和解）となられたイエシュアだけが、真の和解をもたらすことができるのであり、それは彼の尊い血が流されたことによるのです。（ヨハネ 14:6）

### 4 ヤハツ

#### ▼ マツァ袋を持ち上げる。

さて、ここに3枚のマツァ（種入れぬパン）があります。これは、調和を示すものであり、父祖三代を示すものですが、メシアニック・ビリーバー（イエスをメシアと信じるユダヤ人）にとっては三位一体を示します。種入れぬパン（マツァ）は平らで（それは

罪が無いことを示す)、傷がつけられており (その打ち傷によって私たちは癒された)、そして穴があけられて (イエシュアが十字架につけられた時に手と足は釘で刺し貫かれました) います。

#### ▼中央のマツツァを取り出し、二つに割ります。

これは「苦難のパン」と呼ばれます。大きな方の片を「アフィコーメン」(デザートの意味)と呼び、布に包んで隠し、セデルの最後に食べます。砕かれたマツツァは私たちのために砕かれたイエシュアの御体なのです。彼は自らの意思で私たちの罪のために苦しんで下さいました。彼は私たちの罪の代価として下されるべき罰を、愛のゆえに支払って下さったのです。

(Ⅱコリント 5:21) 神は、罪を知らない方を、私たちの代わりに罪とされました。それは、私たちが、この方であって、神の義となるためです。

#### ▼アフィコーメンを司式者へ

司式者のテーブルに集めたアフィコーメンを、袋に入れて部屋のどこかに隠します。

#### ▼残りのマツツァを元に戻してく ださい。

アフィコーメンは贖い主の象徴です。彼は、終わりの時まで、しばらくの間、ユダヤ人の目から隠されます。時が来ると、彼らの目のおおいが取り除かれ、彼らは「彼らは、自分たちが突き刺した者、わたしを仰ぎ見…嘆く」のです。(ゼカリヤ 12:10)

その後、彼は民に迎えられ、世界的な宣教が起こり、かつて無かったようなリバイバルが起こるのです。

※食事の後、ここで隠したアフィコーメンを子供たちが探して見つけることになります。子供たちが眠らないために考え出された風習だと言われています。

## 5 マギード

#### ▼杯に二杯目を満たす。(飲むのは物語の後)

これから、セデルの中で「マギード」つまり物語と呼ばれている部分に入ります。数千年にもわたり、ユダヤ人の家族は毎年この時になると贖いの物語を語って来ました。それは、何世代にもわたって語り継がれ、全ての子供が自分の出自を知り、彼らが仕えている神の性格を知ることができたのです。

私たちはメシアの血と、彼の驚くべき恵みを通し、信仰によって贖われた者として、この物語を祝います。

この箇所は、子供たちが主役となるので、祭の中でも最も覚えられ、懐かしいと思われる箇所です。

#### ★小さな子供が質問します。

なぜこの夜は他の夜と違うの？ 他の夜はいろんなパンも食べるのに、なぜ今夜は種入れぬパンだけ？ 他の夜はいろんな野菜を食べるのに、なぜ今夜は苦菜だけ？ 他の夜は一度も浸して食べないのに、なぜ今夜は二度も浸すの？ 他の夜はどんな姿勢でも良いのに、なぜ今夜は寄りかかって食べるの？

### ★子供は質問後に席に戻る

#### 応答

それは、私たちがエジプトでファラオの奴隷だったからです。しかし私たちの主なる神はその地から私たちを連れ出されました。主の強い手を伸べて、主の強い力によって。

そして、ほむべきお方である主が、その時の私たちの先祖を救われなかったら、私たちも、私たちの子供たちも、先祖の子供たちも、今の私たちのように自由ではなく、まだ奴隷だったことでしょう。私たちはまだエジプトで働いていたでしょう。救いをお与えになる神に感謝！！

イエシュアが「エジプト」の束縛と隷属から、罪の奴隷の状態から解放してくださったことを、私たちは覚えます。それは誰にも不可能なことでした。だから彼だけが、栄光と名誉と威光にふさわしいお方であり、私たちは自分を生きた供え物として彼を礼拝するので、私たちが捧げることができる最も大きなものでさえも、彼にふさわしい代価には及びません。

#### 隷属から贖いへ

我々の父祖たちはわずか 70 人でエジプトに行きました（**申命記 10:22**）が、そこで大きな民族（**申命記 26:5**）となりました。しかしエジプト人たちは私たちをひどく扱い、重い圧迫を加えた（**申命記 26:6**）のです。

時代を経てエジプトの王が変わり、イスラエルの子らは圧迫にうめきました。彼らの叫びは神のもとに届いた（**出エジプト 2:23**）のです。「私たちが、私たちの父祖の神、主に叫びますと、主は私たちの声を聞き、私たちの窮状と労苦と圧迫をご覧になりました。」（**申命記 26:7**）「神は彼らの嘆きを聞かれ、アブラハム、イサク、ヤコブとの契約を思い起こされた。」（**出エジプト 2:24**）神は民の状態を見てあわれみを感じられました。レビ人モーセはエジプトの王子の養子になりましたが、自分の民の重荷を見たのです。

怒ったモーセは、イスラエル人の奴隷を撃っている奴隷使いを殺しました。その後、彼はイスラエル人と争っているイスラエル人を見て、とがめたところ「だれがあなたを私たちのつかさやさばきつかさにしたのか。あなたはエジプト人を殺したように、私も殺そうと言うのか」と言われました。そこで、モーセは恐れてミデアンの地に逃れました。（**出エジプト 2:11-15**）

しかし「だれがあなたを…さばきつかさにしたのか」という質問に、燃える柴の所でモーセに現れた神は答えになりました。

この柴はイバラとも訳せます。イスラエル人の救いにはイバラが関係していますが、血の犠牲で全世界の救いをもたらしたイエシュアもまた、イバラの冠を与えられました。この両方の例で、神はご自分の民に対する不断のあわれみと見守りを宣言されています。

私たちの神は、イスラエルだけでなく 全ての民族を心にかけておられることをよく理解しておくべきです。「在留異国人を苦しめてはならない。しいたげてはならない。あなたがたも、かつて はエジプトの国で、在留異国人であったからである。」(出エジプト 22:21)

しかし、皮肉なことに第二神殿の破壊の後でユダヤ民族はたえず迫害され、離散した先の外国で異国人としてひどい扱いを受け、利用し、破滅させるべき放浪者と見なされました。

しかし、サタンにとっては残念なことに、神は 選民が減ぶ事を許されず、かえって栄えさせられたのです。エステル時代からホロコースト（ヒトラーによって、500~600万人のユダヤ人がガス室に送られて殺されたこと）まで、1948年の現代イスラエル建国から現在に至るまで、ユダヤ民族は「まどろむこともなく、眠ることもない」と高き主権者の力により、生き延びて来たのです。

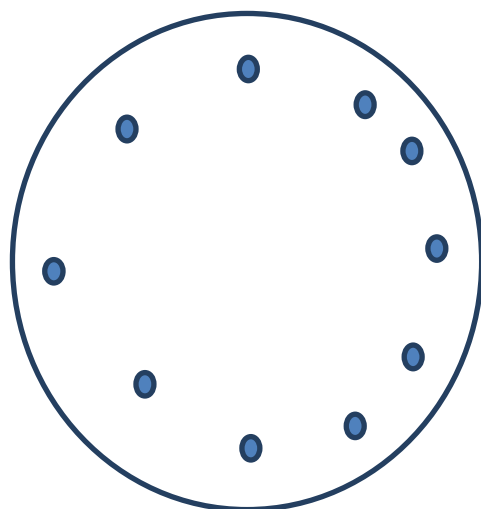
## 十の災い

さて、聖書は敵に対する同情心を教えています。ですから、エジプトを苦しめた災害について語られる時、新しく注がれた「感謝の杯」から1滴ずつ「災いの皿」にこぼすことにします。

こうして、私たちが杯から飲む時も、ファラオの頑迷により苦しみを余儀なくされたエジプト人たちのために悲しみ、救いの喜びを少し減らすのです。主がエジプトの地に住むエジプト人にもたらされた災いは次の通りです。

### ▼災いの名前を唱え、1滴ずつワインを皿に落とす。(スプーンを使う)

1. 血 ダム
2. 蛙 ツファルダイア
3. ぶよ キンニーム
4. あぶ アローヴ
5. 疫病 ダイヴァイ
6. 腫れ物 シュキーム
7. 雹 バラド
8. いなご アルベイ
9. やみ ホシェフ
10. 長子の死 マッカト ベホロット



♪ダイエヌ♪ 「それで私たちには十分でした」！  
エジプトから連れ出していただければそれで十分でした。

エジプト人を裁いていただければ、それで十分でした。  
彼らの偶像を壊していただければ、それで十分でした。  
彼らの長子を殺していただければ、それで十分でした。  
彼らの財産をもらえば、それで十分でした。  
海を割り、その中を行ければ、それで十分でした。  
敵を海の深みに沈めていただければ、それで十分でした。  
40年間の必要を満たしていただければ、それで十分でした。  
荒野でマナをいただければ、それで十分でした。  
力を回復するための安息日をいただければ、それで十分でした。  
シナイ山で御声を聞ければ、それで十分でした。  
私たちを導くトローラーをいただければ、それで十分でした。  
神の住まいである幕屋を建てられれば、それで十分でした。  
約束の地に導いていただければ、それで十分でした。  
神殿の建設を許可され、奉献できれば、それで十分でした。  
そして、私たちの罪のための贖いをしていただければ、それで十分でした。

●一同でダイエヌを歌いましょう。 【ダイエヌ 歌詞】別紙です。

## 感謝（救い）の杯・（2杯目）

▼感謝の杯を持ち上げます。

祈り：主よ、感謝します。あなたを賛美し、栄光を帰し、ほめたたえます。あなただけが賛美にふさわしいお方、全能の神、宇宙の王です。全てのものはあなたによって創造され、あなたによって 我らのメシア・イエシュアの尊い血によって救いに導かれるのです。あなたは 私たちを 奴隷から自由へ 悲しみから喜びへ 嘆きから踊りへ 闇から光へ 隷属から贖いへ移して下さいました。 ハレルヤ！

祈り：主よ、ペサハに感謝します。私たちはここに救いの奇跡と、あなたの尊い血による罪の赦しを祝います。あなたは私たちを奴隷状態から解放し、あなたが定められたように、栄光から栄光へと変えられるのです。

祈り：ほむべきかな我らの主なる神、宇宙の王。あなたはぶどうの実を創造されました。

●感謝の杯（2杯目）を飲み干します。

## 象徴的食品の説明

### 【1】砕かれない小羊の骨（ズロア）

聖書時代、過越の祭に小羊を食べることが出来たのは、エルサレムだけでした。それは、過越しの小羊は、神殿で屠殺されなければならなかったからです。そこで、エルサレムの神殿が破壊されると、小羊は過越の食事に用いられなくなってしまいました。一般的には、小羊のすねの焼いた骨を見て、過越の小羊を記念します。

**★骨は食用ではありませんので、絶対に食べないで下さい！！**

### 【2】焼いた卵（ハグイガ / ベイツァー）

オーブンで焼いた卵、あるいは固ゆでの卵は、私たちが嘆いている破壊された神殿とを示します。しかし、イエシュアを知り、彼に従う私たちは聖霊を受けており、私たちの体が聖なる汚されない神殿なのです。

### 【3】苦菜（マロール）

苦菜は、エジプト人のもとでイスラエル人が体験した苦い奴隷の経験を思わせるものです。私たちもまた罪の奴隷でしたが、イエシュアが私たちを自由にしたことを覚えます。一般的には、西洋わさびが使われますが、日本の場合は大根おろしにわさびを入れて用います。

### 【4】リンゴ、蜂蜜、ナッツなどの甘い混ぜ物（ハロセット）

この混ぜ物は、イスラエル人がパロ（ファラオ）のピラミッドを建てる時に使ったレンガと泥、そして奴隷の苦難を思い出させるものです。しかし、その苦しみは、その中に混ぜられた甘いもの（ハチミツ）で和らげられます。それは「乳と蜜の流れる国」の約束です。

### 【5】パセリ（カルパス）

パセリを塩水に浸して食べる時、エジプト人に酷使されていた頃のイスラエル人の苦役を思い出します。だから、私たちは主を賛美するのです。

### 【6】レタスの一種（ハゼレット）

伝統によっては、別のタイプの苦菜としてハゼレットが加えられ、セデル皿に6種類のもので置かれます。

### 【マツァ】

エジプトからのイスラエルの救いがあまりにも早く来たことを記念するものです。エジプト人は急いで彼らを追い出したので、彼らは生地をパン種で醗酵させてふくらませる時間がありませんでした。（**出エジプト記 12:33-34:49**）。現在では機械焼きの四角いマツァが主流です。

## **6 ラハッツ - 手を洗う**



僕としての働きをするため、イエシュアは立ち、腰にタオルを巻いて水を汲み、弟子たちの足を洗われて、それをタオルで拭き、再び席につかれた。そして言われた。「あなたがたはわたしを先生とも主とも呼んでいます。あなたがたがそう言うのはよい。わたしはそのような者だからです。それで、主であり師であるこのわたしが、あなたがたの足を洗ったのですから、あなたがたもまた互いに足を洗い合うべきです。」（ヨハネ 13:13-14）

祈り：ほむべきかな我らの主なる神、宇宙の王。あなたは律法で私たちを清め、手を洗うことをお命じになりました。

主は私たちは清められましたが、それは他の人々に仕えるためなのです。

●フィンガーボールを使って、各自が手を洗う。イエシュアの教えに従い、互いに手を洗い合うようにしましょう。

## 7 マツア

### 食前の祝福

ここで、日々のパンへの感謝と、苦難のパンへの感謝を唱えます。

最も上にあるマツアと、最も下にあるマツアは、荒野にあってイスラエル人の身体を健康を保ったマナを、また私たちが食べる日々の食物を思わせるものです。このマナは、**詩篇(78:25)**の記者によると、天使たちの食べ物だとされます。

それでも『人はパンだけで生きるのではなく、神の口から出る一つ一つのことばによる』(マタイ 4:4) のです。ですから、私たちの肉体を保つ肉の食物と共に、私たちは「生きたパン」を食べなければなりません。それは「言葉が肉になった」ものであり、それによって私たちが霊的にも肉体的にも生きることができるのです。

▼上のマツアを取り出し、各テーブルで回す。

●全員が上のマツアから1片を取ります。(ここではまだ食べません。)

▼中のマツアの残りの半分も、同様にします。

全員が、我らのメシア・イエシュアを象徴する中央のマツア（苦難のパン）の1片を取りました。私たちが霊的にも肉体的にも栄養を与えられた時、私たちは真に地の塩になるのです。私たちはまた、神と民の間の塩の契約を覚えます。「それは、主の前にあって、

あなたとあなたの子孫に対する永遠の塩の契約となる。」(民数記 18:19)

ここで2つの祝福が唱えられます。

祈り：ほむべきかな我らの主なる神、宇宙の王。あなたは地からパンを出されました。

祈り：ほむべきかな我らの主なる神、宇宙の王。あなたは種入れぬパンを食べる律法によって、我らを聖別されました。

●全員でマツアを食べます。

## 8 マロール 苦菜

「その夜、その肉を食べる。すなわち、それを火に焼いて、種を入れないパンと苦菜を添えて食べなければならない。」(出エジプト記 12:8) と定められた通り、苦菜を食べます。苦菜は奴隷状態の苦しみを象徴するものとされます。

▼テーブルリーダーは、マロール (苦菜/大根おろし) の皿を持ち上げます。

それから、祝祷を唱えます。

祈り：ほむべきかな我らの主なる神、宇宙の王。あなたは苦菜を食べる律法によって、我らを聖別されました。

●全員がスプーンでマロールを少しずつ皿に取って下さい。次に、その半分を一緒に食べましょう。

(残りの半分は、次のコレイク のために取っておきます。)

## 9 コレイク サンドイッチ

ラビ・ヒレル (紀元10年に死去した高名なラビ) がサンドイッチを発明しました。それはマツア、苦菜、小羊を組み合わせたもので、一般に「ソップ」と呼ばれました。出エジプト記 12:8 には、小羊の肉を焼いて、種を入れないパンと苦菜を「添えて」食べなければならないという記述があるため、ラビ・ヒレルは苦菜と過越の小羊をマツアにサンドイッチにして食べることを考案しました。

▼ハロセット (甘い混ぜ物) と、最下段のマツアとを回す。 (祝福は唱えません。)

●自分のマツアを半分にして、ハロセットを、先ほど残したマロールを挟み、サンドイ

**ツチにして食べます。**

さて、弟子たちが最後に過越の小羊を食べた時、イスカリオテのユダは同席していませんでした。また、イエシュアが食事の後で配ったアフィコーメンと、祝福と贖いの杯（3杯目）も口にしませんでした。イスカリオテのユダは、ゲッセマネの園でイエシュアを捕えるために同行した神殿の役人たちと共に過越の小羊を食べることにしていたのかもしれませんが。

## 10 シュルハン・オレイフ

ここで食事となります。 今日はこの部分は省略。

**★食事の後で必要なものは、ワイングラスとアフィコーメンだけです。 象徴的食品は、全  
て食べていただくか、どこかに片付けて下さい。** 小羊の骨は食べないでください。

## 11 ツァフオーン

**★子供がアフィコーメンを探して 見つけ、包みの布と共に、司式者の前に置きます。**

普通は、アフィコーメンを見つけた子供に父が何かプレゼントをあげます。メシアニック・ジューの中には、これが 預言的意味を持っているという人々もいます。メシアがイスラエルの子らの目から 2000 年にわたって隠されているからです。しかしこのアフィコーメンのように、彼らはメシアを見つけ、父は 彼らに永遠の命を与えられます。彼らが早くメシアを発見するように祈りましょう。

**▼第3の杯、祝福と贖いの杯にワインを満たします。**

### 【参考】

**この部分が、聖餐式の起源となっています。** 私たちはこれから、ワインとマツツァ（種入れぬパン）を食べますが、それは、イエシュアの身体と、血を象徴しているのです。

主を尋ね求める者は、良いものに何一つ欠けることはない。幸いなことよ。主に信頼する人は。主は、ご自身の民に力をお与えになる。主は、平安をもって、ご自身の民を祝福される。（詩篇 34:10; 40:4; 29:11）

**▼ 各テーブルに包んで置いていたアフィコーメンを包みから出して取り上げます。**

(ここから赤い字の部分は**聖餐式の起源**ですので、牧師に司式していただきます)。

主イエスは、渡される夜、パンをとり、感謝してこれを裂かれました。

ほむべきかな、父なる神、あなたは御民イスラエルに贖い主を送ると約束されました。それは罪と不義を終わらせ、贖い主であり救い主であるイエシュア・メシアを通して永遠の義を与え、和解をもたらすためです。

主よ、あなたがイエシュアを送られたことを感謝します。彼はマツァを割り (アフィコーメンを割り)、弟子たちに渡して言われました。

▼マツァをテーブルの周りの人 に回す。

「これはあなたがたのための、わたしのからだである。わたしを記念するめ、このように行いなさい」。 (マルコ 14:22)

●全員、アフィコーメンを食べる。

## 12 バレフ (祝福)

▼第3の杯を取る

イエシュアは言われました。「ただ、言うておきます。わたしの父の御国で、あなたがたと新しく飲むその日までは、わたしはもはや、ぶどうの実で造った物を飲むことはありません。」 (マタイ 26:29)

祈り：ほむべきかな、我らの主なる神、宇宙の王。あなたはぶどうの実を創造されました。

「これは、わたしの契約の血です。罪を赦すために多くの人のために流されるものです。」  
(マタイ 26:28)

● 3杯目を飲み干す

アフィコーメンをいただいたので、私たちはイエシュアを覚えます。彼はアルパでありオメガです。昔いまし、今いまし、後に来られる方、昨日も今日も、永遠に変わることはないお方です。

イエシュアと弟子たちが食事を食べ終わると、ケデロン谷の向こうに行かれました。その時、イエシュアは弟子たちと共に、ハレルを歌いながら行かれたのです。

## 13 ハレル 賛美

詩篇 113～118 は、別名「ハレル」と呼ばれ、過越の小羊が屠られる時、神殿で歌われました。ですから、「私たちの過越の小羊キリストが、すでにほふられた」（I コリント 5:7）ので、喜んで神を賛美し、感謝するのです。

●詩篇 113-118 から、2つの篇を選び、朗読または吟唱する。（今回は 117 だけを交読で。）

### 詩篇 117 交読

- 1 すべての国々よ。主をほめたたえよ。  
すべての民よ。主をほめ歌え。
- 2 その恵みは私たちに大きく、  
主のまこととこしえに。ハレルヤ。

●賛美「主に感謝せよ」別紙

### ■完了の杯 - 第4の杯

#### ▼4杯目の杯を満たす

カルバリーの丘で贖いは成就しました。イスカリオテのユダが神殿の警備隊と、護衛のローマ兵士と共に現れたのです。ユダは接吻でイエシュアを裏切りました。

イエシュアが聖なる神の名（「私はそれです」ヨハネ 18:5-6）を唱えると、彼らはみな、地に倒れたのです。イエシュアは天使の軍団に命じてご自分を守り、逃げることもできたのですが、彼は自ら逮捕され、縄を受け、尋問されたのです。そして、大祭司の指示により、彼は翌日にポンテオ・ピラトの前に引き出されました。ピラトはイエシュアが無罪であると宣言したのですが、人々に責め立てられ、イエシュアを罪人として十字架につけさせてしまったのです。

十字架上でイエシュアは「わたしは渇く」と叫びました。そこで私たちが罪から清めるイエシュアの血（I ヨハネ 1:7）を連想させるヒソブの枝を使って、海綿に酸いぶどう酒を含ませて、イエシュアの口元に差し出されたのです。「神の国が来るまでは、ぶどうの実から造ったものを飲まない」と言われたイエシュアは、この時にぶどう酒を受けられました。つまり、彼の贖いの業は完了したのです。そして彼は「完了した」（ヨハネ 19:30）と言われました。そして、頭をたれて、父に霊をお渡しになったのです。イエシュアは息をひきとられました。安息日の主は、安息日に休まれたのです。そして三日目に彼は死人の中から復活されました。彼は今も生き、支配しておられる栄光の主なのです。

#### ▼第4の杯を持ち上げる

「あなたがたを私の民とし、私はあなたがたの神となる」

祈り：ほむべきかな我らの主なる神、宇宙の王。あなたはぶどうの実を創造されました。

## ● 4 杯目を飲む

### 14 ニルツァ

#### エリヤの杯（第5の杯）

**司式者は第5の杯を満たす。（この杯は飲みません。）**

エリヤが来てメシア来臨とイスラエルの復興を告げる（マラキ 4:5）という信仰にもとづき、過越の祭に全てのユダヤ人の家庭にエリヤが来るという伝説が広がりました。そこで各家庭ではエリヤのために椅子を用意し、ここで戸を開けます。そして子供たちは、エリヤの杯が減るかどうかを調べるのです。

**★子供は戸を開け、杯を見る。**

イエシュアは私たちの心の扉の前に立ち、私たちを招いておられます。

「だれでも、わたしの声を聞いて戸をあけるなら、わたしは、彼のところに入って、彼とともに食事をし、彼もわたしとともに食事をする。」（黙示録 3:20）

祈り：私たちは信仰によってあなたに心の扉を開けます。主よ、私たちはあなたを私たちの心に招き入れ、あなたが私達の生活のあらゆる部分を支配されるよう願います。主よ、私たちをあなたに熱心なものとして下さい。「熱くもなく、冷たくもない」者とならないように。

祈り：主よ。約束どおりにあなたの霊を私たちの上に注いで下さい。預言者ヨエルが「あなたがたの息子や娘は預言し、青年は幻を見、老人は夢を見る。」（ヨエル 2:28）と預言したように。

●全員で唱和します。

**ラシャナ ハバー ビルシャライーム！ 来年こそはエルサレムで！（2回唱える）**

※このハガダーは、「シオンとの架け橋」制作のDVD「ユダヤ人と学ぶ過越の祭」（編集：ロジャー・レンク/石井田直二）を土台にして作成したものです。